

北海道への誇りと愛着を育て、国際社会で生きる力をはぐくむ

ふるさと教育の充実を目指して

「指導プログラム」活用の手引

道教委WEBページ「北の大地に根ざした豊かな学び推進事業」から「総合的な学習の時間における『指導プログラム』」をダウンロードして、本リーフレットと合わせて御覧ください。

(<http://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kitanodaiti1.htm>)



検索

クリック

総合的な学習の時間「指導プログラム」

北の大地に根ざした豊かな学び推進事業

総合的な学習の時間における 指導プログラム



北方領土に関する学習

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習

北海道の文化遺産等の教育資源を活用する学習

「ふるさと教育」とは、本道の子どもたちが北海道について理解を深め、郷土に対する愛着や誇りをはぐくむとともに、国際社会においてよりよく生きようとする資質や態度を育てる教育です。

道教委では、「ふるさと教育」の充実を目指し、

- 北方領土に関する学習
- アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習
- 北海道の文化遺産等の教育資源を活用する学習

の3つの学習テーマによる総合的な学習の時間における「指導プログラム」を作成しました。

平成23年3月
北海道教育委員会

指導プログラムの活用方法

「指導プログラム」には、各学習テーマに5時間版と10時間版の「指導プログラム」があります。各学校においては、学習テーマと「指導プログラム」の配当時間の組み合わせを自校の実態に応じて選択したり、アレンジしたりすることができます。

学習テーマ

北方領土に関する学習

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習

北海道の文化遺産等の教育資源を活用する学習

5時間版「指導プログラム」

10時間版「指導プログラム」

×

小学校

第6学年 「総合的な学習の時間」 単元指導計画

「指導プログラム」にある単元指導計画は、次の様式で示されています。



単元名	時数		時間
単元の目標			
地域、児童生徒の実態			
育てようとする資質や能力及び態度	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
前学年との関連			
教材			
地域の人材			
地域の施設			
学習過程(時間)	● 主な学習内容		□ 評価 ○ 人材、施設、資料等の活用 ■ 指導上の留意点
	課題の設定		
	整理・分析		
	情報の収集		
	まとめ・表現		

全体計画に基づいて、具体的な単元の目標や育てようとする資質や能力、態度などの設定例が示されています。

単元で主に活用する教材や地域の人材、施設の例が具体的に示されています。

総合的な学習の時間において重視されている「探究的な学習」となるよう学習過程の例が示されています。



「指導プログラム」は総合的な学習の時間のねらいに応じて、指導のポイントをコンパクトに示しています。

「指導プログラム」を活用する3つのポイント

総合的な学習の時間において「指導プログラム」を活用する指導により、「子ども」、「学校」、「地域」の3つの観点で変容が期待されます。

(平成23年2月に実施した「ふるさと教育推進フォーラム」におけるパネルディスカッションをもとにまとめました)

Point1 子どもが育つ

「指導プログラム」は探究的な学習、協同的な学習になるよう工夫されています。



- 体験で得た情報を言葉で表現し、発信する学習活動が位置付けられており、子どもの考えが深まる。
- 子どもたちが協同して地域のために課題を解決しようという態度や資質が育つ。



Point2 学校が変わる

「指導プログラム」は組織的に指導できるよう工夫されています。



- 各学年の指導計画が学年の発達の段階に応じて作成されており、学校で組織的に指導することができる。
- 小・中学校の連携に配慮した系統的な指導計画の工夫を図ることができる。



Point3 地域とつながる

「指導プログラム」は地域の施設や人材を活用できるよう工夫されています。



- 子どもが地域の施設を活用したり、人々と直接触れ合ったりしながら学ぶ学習活動が位置付けられており、地域のよさを実感することができる。
- 指導のねらいを地域の人たちと共有することができ、学校と地域が互いに子どもの学びを支え合うようになる。



北方領土に関する学習

「指導プログラム」P1～P20 参照

- 北方領土に関する学習は、我が国の固有の領土である歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島が現在ロシア連邦によって不法に占拠されていることや、我が国はその返還を求めていることを踏まえて指導することが大切です。

5時間版「指導プログラム」の例

※主な教材の「学習資料」は「北方領土ってどんなところ？」(下記参照)

学年	単元の学習課題	主な教材	地域の施設、人材	ページ
小学校 3・4年	北方領土ってどんなところ？	学習資料 ビデオ教材	特になし	P3～4
小学校 5・6年	北方領土について再発見しよう。	学習資料 白地図	特になし	P5～6
中学校 2年	北方領土について調べ考えたことを発信しよう。	地図帳 関連WEBページ	元島民の 語り部	P7～8

10時間版「指導プログラム」の例

小学校 3・4年	北方領土にはどのような生き物がいるのだろう。 北方領土ではどのような暮らしをしていたのだろう。	カルタ 関連WEBページ	北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」	P11 ～12
小学校 5・6年	北方領土の開拓の歴史について調べよう。 北方領土の問題やロシアとの交流について調べよう。	学習資料 白地図	北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」	P13 ～14
中学校 1年	北方領土をめぐる国境の変遷について調べよう。	学習資料 関連WEBページ	北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」	P15 ～16
中学校 2年	北方領土をめぐる国際的な条約について調べよう。	地球儀 関連WEBページ	北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」	P17 ～18
中学校 3年	北方領土問題の平和的な解決方法を考えよう。	新聞 関連WEBページ	元島民の語り部	P19 ～20

指導プログラムの特徴



● 北方領土の位置や名称はもとより、島々の自然・生活、国際条約の内容などが分かりやすくまとめられている**学習資料「北方領土ってどんなところ？」(発行：北方領土復帰期成同盟)**を積極的に活用しています。

● 北方領土に関する施設や人材の活用が難しい場合は、千島歯舞諸島居住者連盟の「北方領土の語り部派遣事業」などを活用し、子どもたちが北方領土での生活や返還への願いについて考えることができる活動を位置付けることが大切です。

▲ 本学習資料はすべての小学校第5学年に配布されています。中学校の学習資料も今後、作成する予定です。

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習

「指導プログラム」P21～P72 参照

- 副読本を活用した調べ学習等を取り入れ、アイヌの人たちの歴史や文化、言語や生活様式などについて、正しく理解できるよう指導することが大切です。

5時間版「指導プログラム」の例

※主な教材の「副読本」は「アイヌ民族：歴史と現在」（下記参照）

学年	単元の学習課題	主な教材	地域の施設、人材	ページ
小学校 4年	アイヌの人たちの楽器について調べ、ムックリの演奏をしてみよう。	副読本 学習資料 ムックリ	アイヌ文化保存会	P25 ～26
中学校 2年	現在のアイヌ文化はどのような文化なのか調べよう。	副読本 イランカラブテ(DVD)	アイヌ文化保存会	P31 ～32

10時間版「指導プログラム」の例

小学校 3・4年	アイヌの人たちの昔の生活について調べよう。	町教委が編集した副読本	アイヌ文化保存会	P51 ～52
小学校 5年	アイヌの人たちの衣服や文様について調べよう。	副読本 ピラサ	アイヌ民族博物館	P43 ～44
小学校 6年	昔や現在のアイヌの人たちを取り巻く状況について調べよう。	副読本	アイヌ文化保存会	P65 ～66
中学校 1年	アイヌの人たちの歴史や文化について調べよう。	副読本 ピラサ	郷土資料館	P55 ～56
中学校 3年	アイヌの人たちの昔と今の生活の違いについて考え、私たちの町のこれからについて考えよう。	副読本 イランカラブテ(DVD)	アイヌ文化保存会	P71 ～72

指導プログラムの特徴



- ▲ 本副読本はすべての小学校第5学年、中学校第2学年に配布されています。

アイヌの人々の歴史・文化等について分かりやすくまとめられている副読本「アイヌ民族：歴史と現在」（発刊：アイヌ文化振興・研究推進機構）を積極的に活用しています。

アイヌの人々の歴史・文化等に関する施設や人材の活用が難しい場合は、アイヌ文化振興・研究推進機構の「アイヌ文化活動アドバイザー派遣事業」やDVD「イランカラブテ」などを活用し、子どもたちがアイヌ文化に触れることができる体験活動を位置付けることが大切です。

北海道の文化遺産等の教育資源を活用する学習

「指導プログラム」P73～P96 参照

- フィールドワークや聞き取り調査等の体験的な活動を取り入れ、北海道の自然、文化、産業など本道のよさを実感できるように指導することが大切です。

5時間版「指導プログラム」の例

学年	単元の学習課題	主な教材	地域の施設、人材	ページ
小学校 4年	石炭を掘っていたころの歌志内市の生活の様子を調べよう。	郷土資料館の展示資料	郷土資料館	P75 ～76
中学校 2年	歌志内市が栄えていたころの炭鉱の仕事や街の様子について調べよう。	郷土資料館の展示資料	炭鉱で働いていた地域の人 郷土資料館	P79 ～80

10時間版「指導プログラム」の例

小学校 3年	知床のまわりの海の生き物を調べよう。	海に住む生き物	自然センター 地元の漁協	P83 ～84
小学校 5年	知床の自然と産業を調べよう。	関連WEBページ	地元の漁協	P87 ～88
小学校 6年	世界自然遺産「知床」について調べよう。	リーフレット	知床世界遺産センター	P89 ～90
中学校 1年	世界自然遺産「知床」の自然保護について考えよう。	リーフレット	郷土資料館	P91 ～92
中学校 3年	世界自然遺産「知床」の環境問題について自分たちができることを考えよう。	リーフレット	知床世界遺産センター	P95 ～96

指導プログラムの特徴

- 地域の郷土資料館などの施設や学芸員の活用はもとより、地域の人々と交流する活動を効果的に行っています。
- フィールドワークなどの体験的な活動を通して考えたり、感じたりした情報を共通点と相違点に分けて分析し、レポートや壁新聞にまとめるなど、言語活動を効果的に位置付けることが大切です。



▲ 調べたことをまとめた壁新聞

ふるさと教育の推進のために

- 各学校でふるさと教育の推進を図る際には、「指導プログラム」を踏まえ、学校の実態に応じて関係機関の施設や人材派遣のシステム、学習資料を活用するなどして指導計画を作成することが大切です。

北方領土に関する学習

- (社) 北方領土復帰期成同盟 <http://www.hoppou-d.or.jp/>
- (社) 千島歯舞諸島居住者連盟 <http://chishima.or.jp/>
- 北海道立北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」
<http://www.city.nemuro.hokkaido.jp/section/nihoro/top.htm>
- 北海道総務部北方領土対策本部
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrt/hopporyodo/index.htm>

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習

- (財) アイヌ文化振興・研究推進機構 <http://www.frpac.or.jp/>
- (社) 北海道アイヌ協会 <http://www.ainu-assn.or.jp/>
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター
<http://ainu-center.pref.hokkaido.jp/>
- 北海道教育庁義務教育課（普及啓発資料「ピラサ」）
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/pizara.htm>

北海道の文化遺産等の教育資源を活用する学習

- 北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bns/bun-hogo.htm>
- 北海道環境生活部くらし安全局道民活動文化振興課（北海道文化資源データベース）
<http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-bsbsk/bunkashigen/index.html>